

事業番号 2021 - 復興 - 20 - 0038

令和3年度行政事業レビューシート (復興庁)

事業名	福島イノベーション・コースト構想等を担う人材育成に関する事業			担当部局	復興庁		作成責任者		
事業開始年度	平成30年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 伊地知 英己		
会計区分	東日本大震災復興特別会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	福島復興再生基本方針(平成29年6月30日改訂) 福島復興再生特別措置法に基づく「重点推進計画」(平成30年4月25日認定福島県) 「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針の変更(平成31年3月8日閣議決定)				
主要政策・施策	-			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	浜通り地域等の教育環境の整備や人材の裾野を広げるための取組への支援を通じて、福島イノベーション・コースト構想の実現や震災復興を支える人材を育成する。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	①普通科高校における福島イノベーション・コースト構想を牽引するトップリーダーの育成、②工業科・農業科・水産科等の専門高校における福島イノベーション・コースト構想の即戦力となる人材の育成、③義務教育段階での、専門家による講演会やコンテストの実施など、本構想等を担う人材の育成を支援する。								
実施方法	委託・請負、補助								
予算額・執行額(単位:百万円)			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求		
	予算の状況	当初予算	236	333.7	347	87.4	91.9		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	84.6	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	▲84.6	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計		236	249.1	431.6	87.4	91.9		
	執行額		210	161	362.5	-		-	
	執行率(%)		89%	65%	84%	-		-	
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		89%	48%	104%	-		-		
令和3・4年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目		令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由				
	初等中等教育振興事業委託費		84.3	88.7	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。 ※委託先学校数の増等による。				
	教育振興助成委員等旅費		1.5	1.5					
	教育振興助成謝金		0.7	0.7					
	教育振興助成庁費		0.6	0.6					
	教育振興助成職員旅費		0.5	0.5					
	その他		▲0.1	▲0.1					
計		87.4	91.9						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	①支援対象普通科高等学校のうち、県内の企業・研究施設の活動に興味を持った者の割合を前年度以上とする。	支援対象普通科高等学校のうち県内の企業・研究施設の活動に興味を持った者の割合(県内の企業・研究施設の活動に興味を持った者/参加者)	成果実績	%	13.4	19.1	23.4	-	-
			目標値	%	-	13.5	19.2	-	-
			達成度	%	-	141.5	121.9	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	事業報告書								
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	②支援対象専門高校の卒業予定者のうち就職予定者全体に占める県内就職予定者の割合を前年度以上にする。	支援対象専門高校の卒業予定者のうち就職予定者全体に占める県内就職予定者の割合(県内就職予定者数/卒業予定者数)	成果実績	%	46	47.3	43.5	-	-
			目標値	%	44.3	46.1	47.4	-	-
			達成度	%	103.8	102.6	91.8	-	-

根拠として用いた統計・データ名 (出典)		事業報告書								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	③理科、算数・数学に関するコンテストへの参加者数を前年度と同等又は前年度以上とする。※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、コンテストは中止となったため成果実績、達成度は「-」とした。	理科、算数・数学に関するコンテストへの参加者数	成果実績	人	1,531	1,291	-	-	-	
			目標値	人	1,354	1,532	1,292	-	-	
			達成度	%	113.1	84.3	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)		事業報告書								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	③対象地域における中学校3年生でCEFR A1レベル相当以上を有する生徒の割合を前年度と同等又は前年度以上とする。※30年度限りの事業のため、令和元年度活動見込みは「-」とした。	対象地域の中学校3年生でCEFR A1レベル相当以上を有する生徒の割合	成果実績	%	51.4	-	-	-	-	
			目標値	%	50	-	-	-	-	
			達成度	%	102.8	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)		事業報告書								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック		
定量的な目標が設定できた	定量的な目標が設定できない理由				定量的な成果目標と平成30～令和2年度の達成状況・実績					
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	①普通科高等学校に対する設備整備補助の実施率 ※令和2年度までの事業のため、令和3年度の活動見込みは「-」とした。	活動実績	%	97.4	72.3	100	-	-		
		当初見込み	%	100	100	100	-	-		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	②専門高校に対する施設・設備整備補助の実施率 ※令和2年度までの事業のため、令和3年度の活動見込みは「-」とした。	活動実績	%	88	75.8	100	-	-		
		当初見込み	%	100	100	100	-	-		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	③理科、算数・数学に関するコンテストの実施 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となったため、活動実績は「-」とした。	活動実績	回	2	2	-	-	-		
		当初見込み	回	1	2	2	2	-		

事業所管部局による点検・改善

事業所管部局による点検・改善				
	項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、福島復興再生基本方針等を踏まえ、福島イノベーション・コースト構想の実現や震災復興を支える人材育成への支援を行うものであり、被災地のニーズを的確に反映している。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	福島イノベーション・コースト構想の実現や震災復興を支える人材育成を確実に行うため、国が支援を行う必要がある。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、福島復興再生基本方針等を踏まえ、福島イノベーション・コースト構想の実現や震災復興を支える人材育成への支援を行うものであり、優先度の高い事業である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	本委託事業は、福島イノベーション・コースト構想に寄与する人材を育成するための事業であり、福島県内に活動拠点を置く団体を対象に公募を実施し、外部有識者の審査を経て福島県教育委員会を採択した。	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」実現のため、福島復興再生基本方針等を踏まえ、本構想に寄与する人材育成の支援を目的とした委託事業であり、負担関係は妥当である。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	執行にあたっては県の正規の手続きを経て、最も合理的に支出されるようにして、措置している。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途について、申請段階で事業目的との整合性を確認し、真に必要なものに限定して、措置している。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	執行の計画段階において、類似の機能を有する同等でより安価な物品購入とするよう補助対象事業者に助言する等、効率的な執行に努めた。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	目標に向け、着実に進捗している。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	福島イノベーションコースト構想を担う人材育成のための教育プログラムの開発については、福島県への委託が妥当かつ効果的であり、他の方法は考えられない。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	施設・設備の整備については見込みどおり実施している。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	有効活用されるよう福島県のホームページに掲載している。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-	
	所管府省名	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	本事業は、福島復興再生基本方針等を踏まえ、福島イノベーション・コースト構想の実現や震災復興を支える人材育成への支援を確実に行うことによって、地域の教育力の向上に資しているため、国費投入の必要性は高い。また、事業の実施に当たっては、限られた予算の中で最大限の効果があげられるよう費目・使途の確認等に十分に留意しており、事業の効率性・有効性は高い。		
	改善の方向性	福島イノベーション・コースト構想に寄与する人材育成の事業工程の進捗状況を踏まえ、より具体的な今後の事業計画の把握に努め、不用率の縮小を図る。		

外部有識者の所見

対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

引き続きニーズを的確に把握し、効果的・効率的な執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

引き続きニーズの把握と効果的・効率的な執行に努める。

備考

-

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-			
平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度	新30-0003			
平成30年度	3			
令和元年度	復興庁 - 0041			
令和2年度	復興庁 - 0039			

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

復興庁
432百万円



[文部科学省に移替え]

文部科学省
362.5百万円



[委託・補助]

A.福島県
362.5百万円

[福島イノベーション・コースト構想等を担う人材の育成]

